



活発化する中国東北地区の対ロシア貿易

北陸銀行 大連駐在員事務所
所長

田村 昌邦



ハルビン国際経済貿易商談会 中口展示エリア

1 第32回ハルビン国際経済貿易商談会

2023年6月15～19日、黒龍江省最大の都市ハルビン市で「第32回ハルビン国際経済貿易商談会」（以下、「商談会」）が開催されました。4年ぶりのリアル開催ということもあり、初日に現地を視察してきましたのでご紹介します。

商談会は1990年から続いており、「BtoB」「BtoC」の両方に対応した展示・販売・商談をトータルで行う総合見本市です。今回の商談会には、日本を含む海外38カ国・地域、中国国内21省市の約1400社が参加し、（入場料が1回1000円にもかかわらず）入場者数も期間中累計30万人にのぼりました。会場内は、「中口展示エリア」「国際展示エリア」「中国国内省市展示エリア」など6エリアに分かれています。日本からは、北海道、山形県、新潟県などの地方自治体が「国際展示エリア」に出展し、地元の食品・雑貨小物・工芸品などの特産品を展示販売していました。特に、北海道の醤油（天津の日系食品商社が輸入）は、入場者が味見もせず購入するなど、朝からコンスタントに売っていたようです。

一方、入口付近を多数占居していたのは「中口展示エリア」でした。ロシアからは50数社が出展し、チョコレートやクッキー、活きたタラバガニや魚の缶詰などの食料、ビール・ウォッカなどの飲料のほか、鉄道敷設や鉱山開発など投資誘致のブースもみられました。ロシア人担当者は、

説明・販売以外にも、民族衣装を着てパフォーマンスを披露し、集客に役買っていたようです。

また、ブース出展以外の各種イベントでもロシア絡みのものが多く、開催された38イベントのうち11が対ロシア経済貿易・投資誘致などロシアに関連するものでした。10数年前、同商談会で開催された中国人向け「ロシアセミナー」に出席した際に、講師が「ロシア人はずる賢く、約束を守らないから気をつけろ」と中国人に警鐘を鳴らしていたことからすると、今日の中口の関係改善、経済交流の拡大には隔世の感があります。

2 中口国境に架かる橋の完成

最近、中口国境の黒龍江（アムール川）を跨ぐ橋が黒龍江省内で相次いで完成しており、両国の国境付近における交流が盛んになっています。

（1）黒龍江大橋（黒河－ブラゴベシチェンスク間）

今回の商談会で特に印象深かったのは、黒龍江省の黒河市とロシア・ブラゴベシチェンスクが同一ブースに共同で出展していたことです。両市は黒龍江をはさんだ対岸に位置しており、地域経済一体化をアピールしているように見えました。

図表1 省別国別輸出入合計金額

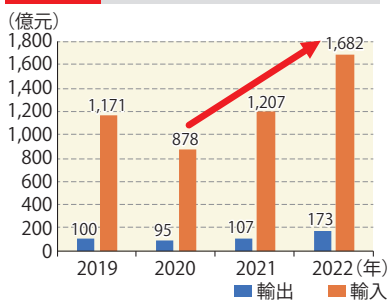
（億円）

黒龍江省						吉林省					
2019年			2022年			2019年			2022年		
順位	国名	金額	順位	国名	金額	順位	国名	金額	順位	国名	金額
1	ロシア	1,270.7	1	ロシア	1,854.7	1	ドイツ	315.4	1	ドイツ	307.4
2	サウジアラビア	64.9	2	ブラジル	81.7	2	日本	103.8	2	ロシア	173.3
3	ブラジル	52.7	3	米国	71.8	3	韓国	73.1	3	メキシコ	84.0
4	米国	39.6	4	オーストラリア	52.5	4	米国	58.4	4	日本	83.1
5	オーストラリア	28.9	5	ニュージーランド	43.0	5	ロシア	57.7	5	韓国	59.6
6	ドイツ	27.1	6	韓国	34.4	6	ハンガリー	48.8	6	米国	59.3
7	ニュージーランド	26.5	7	日本	32.1	7	メキシコ	45.5	7	ブラジル	57.0
8	日本	26.3	8	イラク	31.9	8	チェコ	39.0	8	ポルトガル	56.8
	合計	1,865.9		合計	2,651.5		合計	1,302.2		合計	1,558.5

出所：ハルビン海関

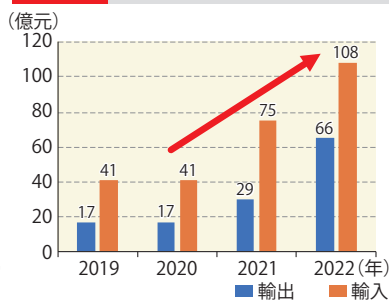
出所：長春海関

図表2 黒龍江省の対ロシア貿易推移



出所：ハルビン海関

図表3 吉林省の対ロシア貿易推移



出所：長春海関

両市の間にある国境を超えるには、これまで夏期は船を、冬期は氷上を走るバスを使っていました。春秋期は河水の影響で船が運行できない時期があり、2010年冬に筆者が訪れた際には、凍結した川の中央付近の国境に金網が張られているなど、人流・物流には多くの制限がありました。

そうした中、2022年6月に自動車橋「黒龍江大橋（全長1284m）」が中口国境橋として初めて開通し、両市の交流は一気に活発になっています。

黒河市からの輸出品目は、自走式農業機械やジャガイモ・ニンジンなどの野菜果物が多く、トラック200輛／日が往来しています。さらに橋の周辺に「越境経済協力区」「自由貿易試験区」「越境ECビジネス総合試験区」を設けるなど、国境橋開通を契機に経済貿易交流の拡大を図っています。

(2) 同江鉄路大橋（同江－ニジュネレニンスコエ間）

黒龍江省の同江市とロシア・ニジュネレニンスコエ市を結ぶ黒龍江初の鉄路大橋「同江鉄路大橋（全長2209m）」は、2022年4月に完成し11月に開通しました。今後、鉄道でモスクワに向かう「中欧班列」^{※1}の一つとして、中口の物流にも大きな影響を与えることになるでしょう。

3 琿春の越境EC

吉林省の琿春市は、ロシアと北朝鮮の両方に国境を接しています。琿春では越境ECに力を入れており、「琿春東北アジア越境EC産業園」が2022年8月にスタート。商品展示販売センター（琿春東北アジア国際商品城）、シェアオフィス、インキュベーションセンターなどがあり、電商・物流・貿易業者など119社が入居しています。同産業園における2022年の越境EC輸出入額は約35億元（約700億円）に達しています。

ロシアから琿春への輸入品目はカニなどもありますが、突出しているのは石炭です。2021年の輸入量は260万tと吉林省の全石炭輸入量の1/3強を占めています。2023年6月、ロシア国境の琿春鉄道検問駅の構内に「琿春輸入百万トン石炭産業園」が竣工しまし

た。琿春－ロシア・マハリノ国際鉄道経由で年間石炭取扱量1000万tを見込んでおり、石炭貿易の主要拠点になると予想されます。

同じ6月に、吉林省発で上海の南の浙江省行きの貨物について、内国貿易扱いでウラジオストク港の利用が可能になりました。ロシアからの貨物増加が実現に至った要因の一つといわれています。

4 終わりに

黒龍江省や吉林省では、コロナ禍においても対ロシア輸出入金額が増加してきました。これは両省が策定した長期計画の中で、ロシア貿易の強化を謳っていることが背景にあります（図表1、2、3）。

黒龍江省は、「国民経済と社会発展の第14次5年計画と2035年長期目標」の対外交流において、「黒龍江省は中国の対ロシア経済貿易協力の先陣」と位置づけ、ロシアとの開放・協力強化を省の第一目標に挙げています。

吉林省は、「“一主六双”^{※2}高品質発展戦略専門計画」で、長春－琿春－ロシアにつながるルートを「大街道」として、北朝鮮・韓国・日本のほか上海・寧波などの中国国内への航路を拡大し、琿春経由の「中欧班列」を正式開通させるとしています。

両省の対ロシア貿易増加は、米中対立やウクライナ侵攻などの直接的な影響よりも、両省政府がロシアのウクライナ侵攻以前に策定していたロシア重視の長期計画を遂行してきた結果といえるでしょう。

今年3月、中ロ両国は、電子商取引を含む貿易取引の拡大や物流面での協力など8分野にわたる「2030年までの中ロ経済協力の主要分野の発展計画」の共同声明に調印しています。両省とも「我が事」と意識しているので、対ロシア貿易はさらに活発化することが予想されます。



資料：Googleマップを用いて北陸経済研究所作成

※1 中欧班列（ちゅうおうはんれつ）：中国各都市からロシア・モスクワやドイツ・ハンブルグなど、中国－欧州間の一帯一路沿線諸国を運行する国際貨物列車。Trans-Eurasia Logistics、China Railway Express（CRE、CR Express）とも呼ばれ、3つのルートがある。

※2 一主六双（いっしゅろくそう）：長春市周辺を経済圏の中枢（一主）とし、各地方都市に延びるダブルの「回廊」や「街道」など6種類の経済帯（六双）を指す。